

29F-pm07

海綿 *Neamphius huxleyi* の新規抗真菌活性物質の単離と構造決定

○日高 幸佑¹, 田中 千晶¹, 宮本 智文¹, Rob W. M VAN SOEST²(¹九大院薬, ²アムステルダム大)

【目的】真菌は環境中に広く分布し、ヒトの体内にも多く生息している。HIV 患者や臓器移植後などの免疫力の低下した状態では真菌が急速に増殖し、日和見感染症を発症しやすくなる。真菌は我々ヒトと同じ真核生物であり、選択毒性の高い薬剤の探索は困難とされている。今回演者等は、真菌を含む多くの微生物が共生する海綿由来の新規抗真菌物質の探索を計画した。

【方法・結果】沖縄県八重山諸島にて採集した海洋無脊椎動物エタノール抽出エキスについて、真菌 *Candida albicans* および *Saccharomyces cerevisiae* を検定菌としたペーパーディスク法およびがん細胞に対する細胞毒性試験による 1 次スクリーニングを行った。真菌に対し選択毒性を示す抽出エキスは確認できなかったが、*C. albicans* に対し顕著な抗真菌活性を示す海綿 *Neamphius huxleyi* より、活性を指標に各種カラムクロマトグラフィーによる分離、精製を行い、活性化合物 **1** を単離した。化合物 **1** は各種スペクトルデータの解析により callipeltin A の関連化合物と推定された¹⁾。現在、詳細な構造解析および生物活性試験を検討している。

1) A. Zampella, L. Minale, *et al.*, *J. Am. Chem. Soc.*, **118**, 6202 - 6209 (1996).